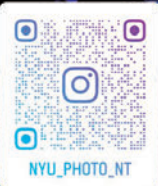




自然豊かな場所 越前町



朝日地区

泰澄大師ゆかりの地

越前麻生津にて生まれ、越知山にごもって修行にあけくれる苦行難行の後、ついに仏の教えを悟ったと云われている。長い間、人が足を踏み入れることを許さなかった白山に、はじめて登拝したのが泰澄大師であり、白山信仰の祖、山岳信仰の祖ともいわれている。

幸若舞発祥の里

幸若舞は、越前町西田中が発祥の地で、室町時代に、桃井直詮(幼名 幸若丸)によって興された。幸若舞は芸の継承がほとんど途絶えてしまっている。現在は、福岡県みやま市に重要無形民俗文化財の民俗芸能として現存している。



宮崎地区

北陸最大の窯業産地

産地としてのはじまりは約850年前の平安時代末期、現在までに200基以上の窯跡が発見されており、当時は主に甕(かめ)や壺、すり鉢、舟徳利、おはくろ壺といった日常雑器を中心に生産していた。明治時代に入り、水道の普及や磁器製品が広まるにつれて需要が落ち込み、衰退。その後、地元の古窯址研究者・水野九右衛門と、日本の陶磁器研究者・小山富士夫が行った発掘調査と研究により復興を遂げ、1948年、六古窯のひとつとして数えられ、全国に知られる焼き物となった。1986年には国から伝統工芸品として指定を受けた。



越前地区

日本水仙三大群生地のひとつ

大正10年、梨子ヶ平地域に自生していた水仙を名古屋の生花市場に出荷したことから、この辺りの農家の間で水仙の栽培が本格的に始まり、急坂の山の斜面へと野生の水仙を植え替えが進んだ。このことにより、今では水仙の一大群生地となり、越前海岸特有の急斜面に一面に咲き誇る独特な景観を生み出した。

越前がにのまち

越前がにには、全国のスワイガニの中でもトップブランドとして知られており、福井県で水揚げされたオスのスワイガニ。全国で唯一の皇室献上ガニでもある、その歴史は古く、明治43年12月に越前町(旧四ヶ浦町)で獲れた越前がにを皇室に献上したという記録が残っている。



織田地区

織田一族の発祥の地

先祖は額神社に代々奉仕の神官。室町時代の越前の守護大名は斯波氏(しばうじ)であり、斯波氏と織田氏とが主従の関係にあり、応永七年(1400)時の守護大名斯波義重が尾張の守護を兼任することになり、家臣の織田氏も尾張へ赴き、後守護代として斯波氏に代って統治する。応仁元年(1467)に応仁の乱が起り、戦国乱世へと突入し、織田氏も次第に勢力を伸ばし、尾張の大名となる。織田信長は、額神社に対する崇敬心は篤く、織田の地を出て百七十有余年、尚一族の氏神と崇め、社領を増殖し、保護している。



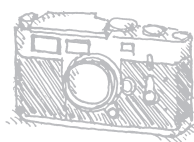
ひまわり畑(上川去)

越前町には素晴らしい景観がたくさんあります

さまざまな人にまだ見ぬ、景観を、と思い景観フォトコンテストを実施しました。

たくさんの写真が集まり、景観フォトマップを製作しました。

皆さんも景観マップを手に持ち、新しい景観を探してみませんか。

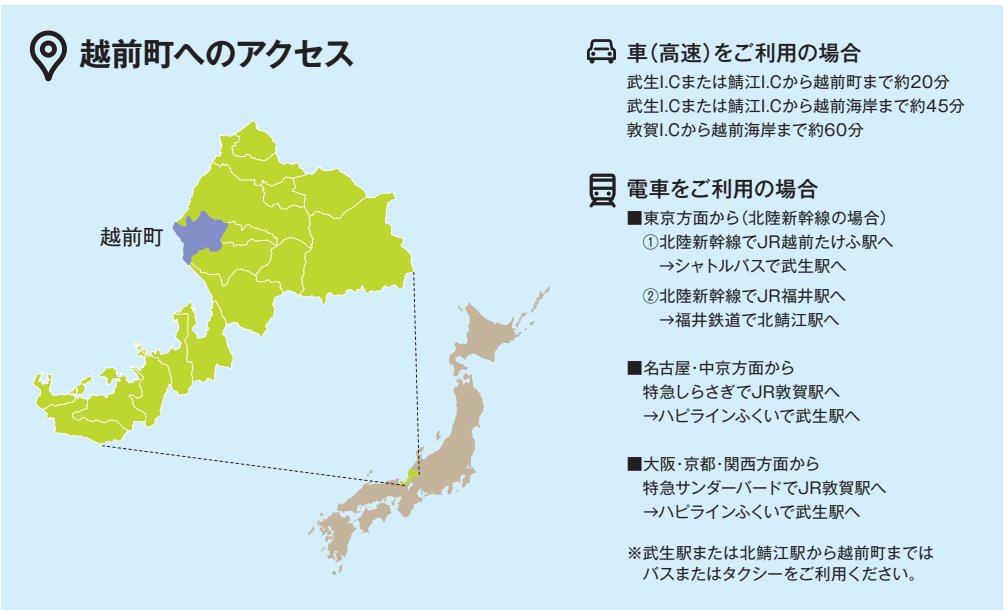


豊かな海土里に育まれた 地域の風土が織りなす、 美しい景観まちづくり

景観は住民みんなの財産です。

一人ひとりがかけがえない美しい景観を大切に守り、つくり、育てる意識を持って、訪れる人に感動を与える越前町らしい魅力あふれる景観を目指しましょう。

越前町景観計画



令和7年00月
都市整備課
〒916-0192 福井県丹生郡越前町西田中13-5-1



20th
ANNIVERSARY
越前町合併20周年

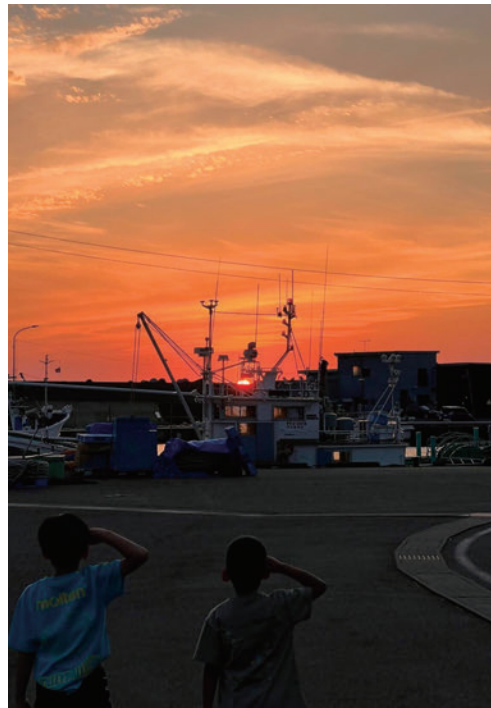
景観と人々の融合



八田獅子舞(陶芸館)



稲架掛け(江波)



街並み(越前海岸)



稲刈り



陶の谷駅跡(陶の谷)



田んぼアート(櫻津)



岡本太郎作「月の顔」(陶芸公園)



陶ふうりん(古窯博物館)



茅の輪くくり(額神社)



貧谷の滝(血ケ平)



O-TA-I-KO音(オタイコリス)